

草津白根山の火山活動解説資料（平成 26 年 1 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

地震活動や地殻変動には特段の変化はみられませんでした。湯釜火口内の北壁等では引き続き熱活動がみられています。

山頂火口から概ね500mの範囲では、火山灰の噴出等に警戒してください。また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺の窪地や谷などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。

平成21年4月10日に噴火予報を発表し、警戒事項を切り替えました（噴火警戒レベル1（平常）継続）。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

奥山田（湯釜の北約 1.5km）に設置してある遠望カメラによる観測では、湯釜北側噴気地帯の噴気孔から弱い噴気が認められました。また、逢ノ峰（湯釜の南約 1 km）に設置してある遠望カメラによる観測では、今期間、視界不良のため不明の期間がありましたが、その他の期間は、噴気は認められませんでした。

湯釜火口内に設置してある東京工業大学のカメラでは、火口内に噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図3、図4-①）

今期間、火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。震源は逢ノ峰及び湯釜から山田峠付近の浅い所に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図4-②～⑥）

GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置を用いて観測を行っています。赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器で、熱源から離れた場所から温度を測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 2 月分）は平成 26 年 3 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、関東地方整備局、東京工業大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2 万 5 千分 1 地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

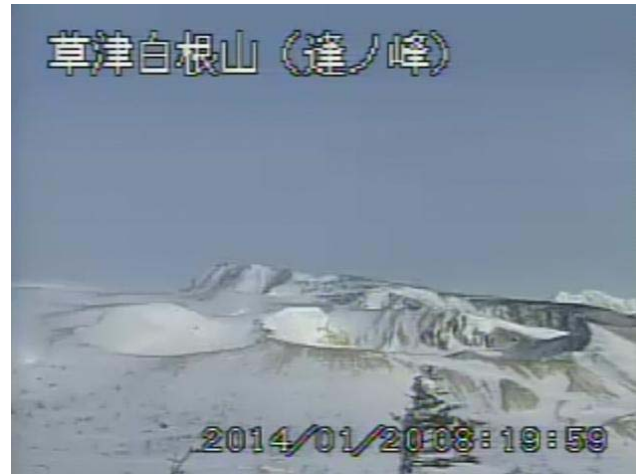


図 1 草津白根山 湯釜付近の状況

- ・左上図：奥山田の遠望カメラ（1月23日撮影）
- ・右上図：逢ノ峰の遠望カメラ（1月20日撮影）
- ・左下図：東工大火口カメラ（1月12日撮影）

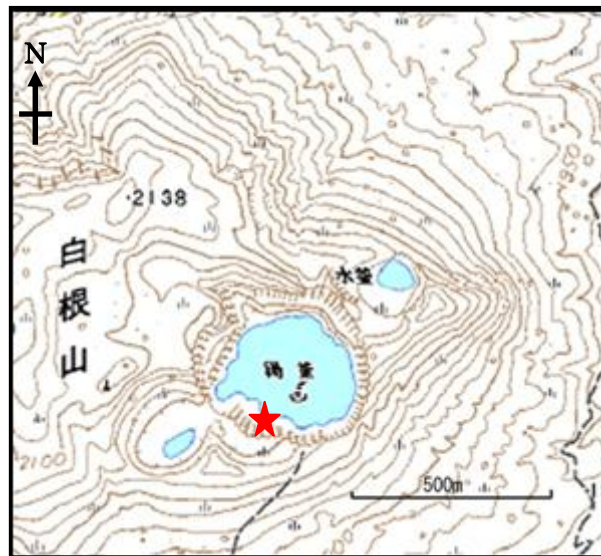


図2 草津白根山 東京工業大学の火口カメラの位置
★ : 図1 東京工業大学の火口カメラの位置

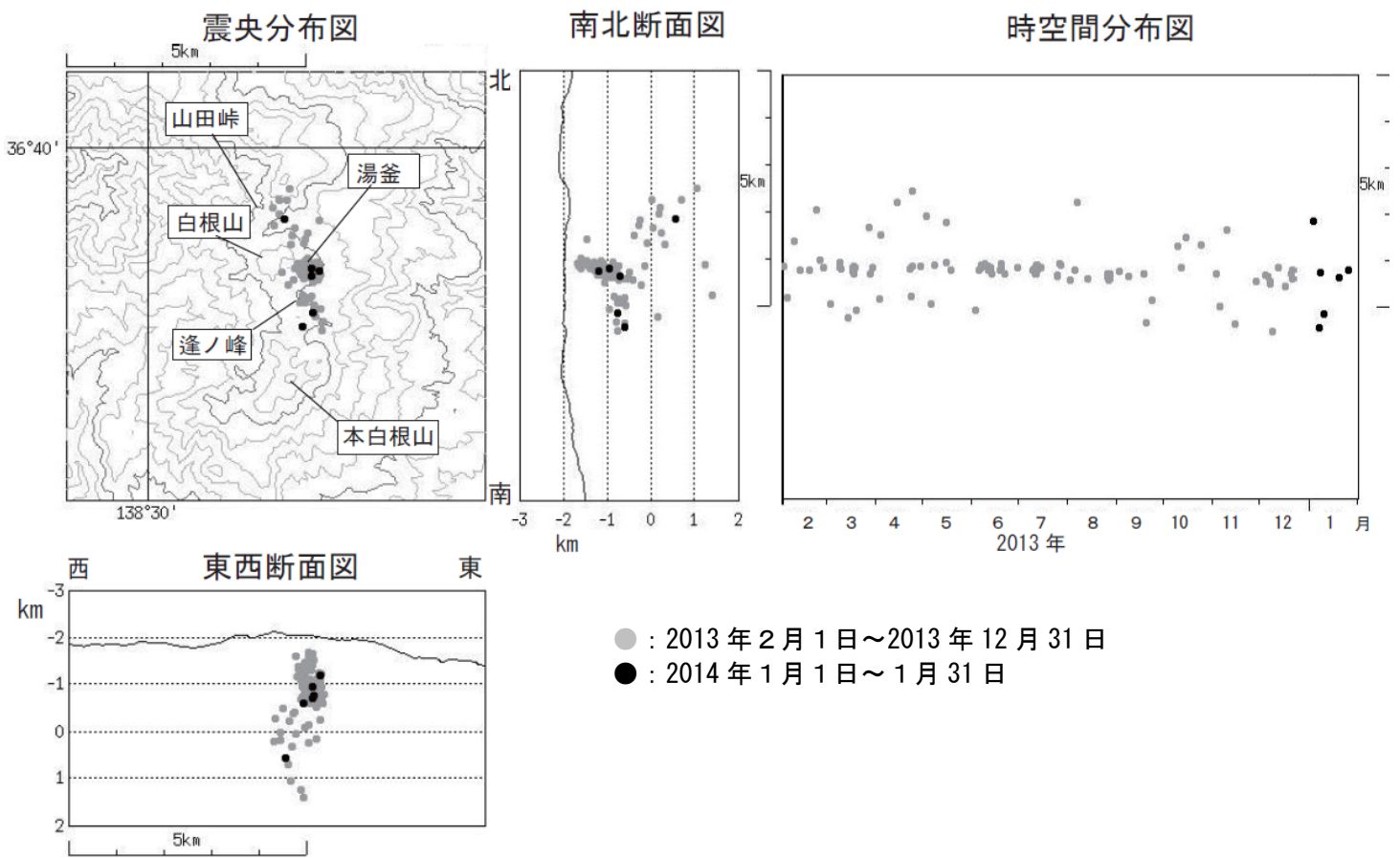


図3 草津白根山 震源分布図 (2013年2月1日~2014年1月31日)

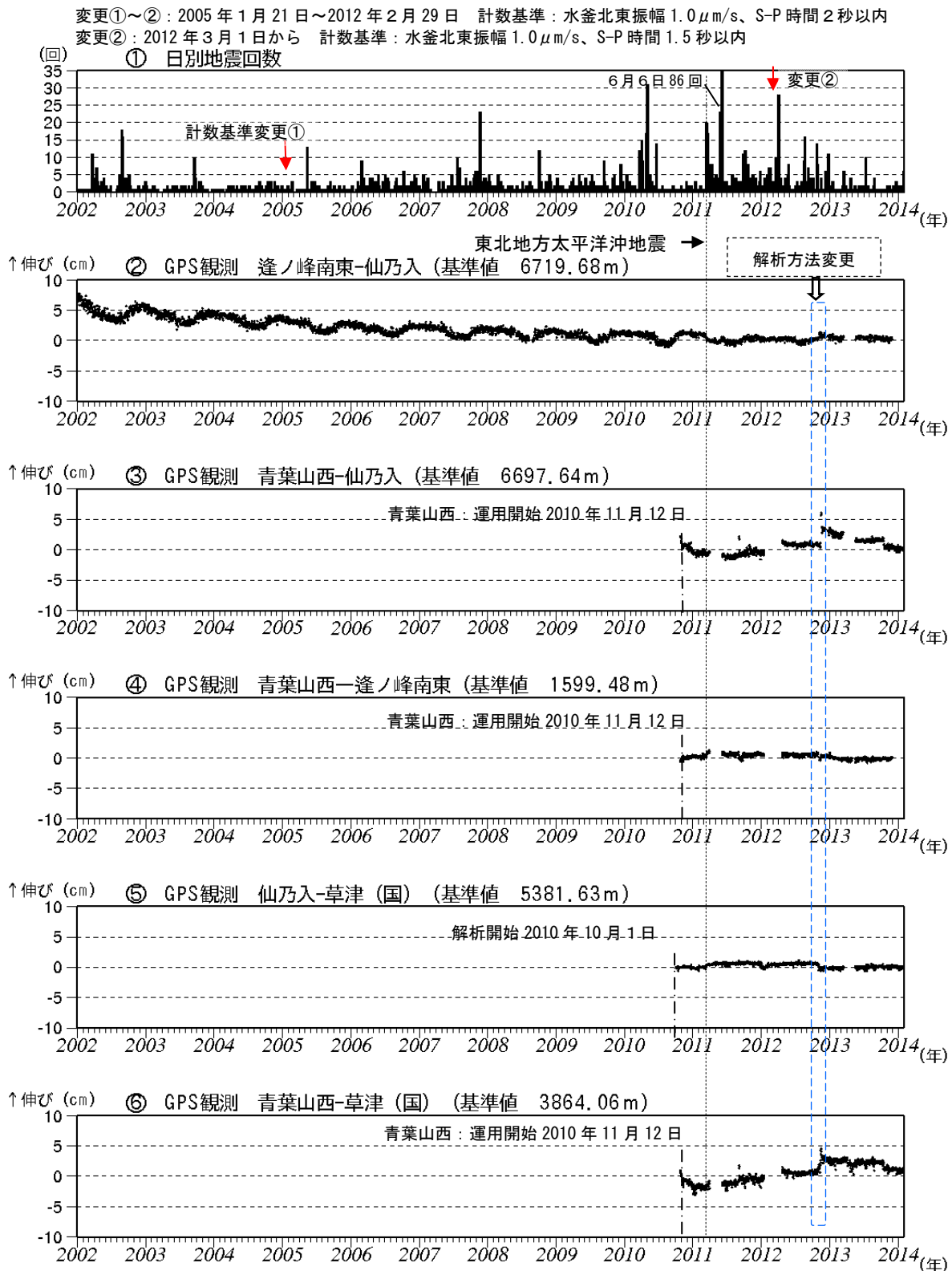
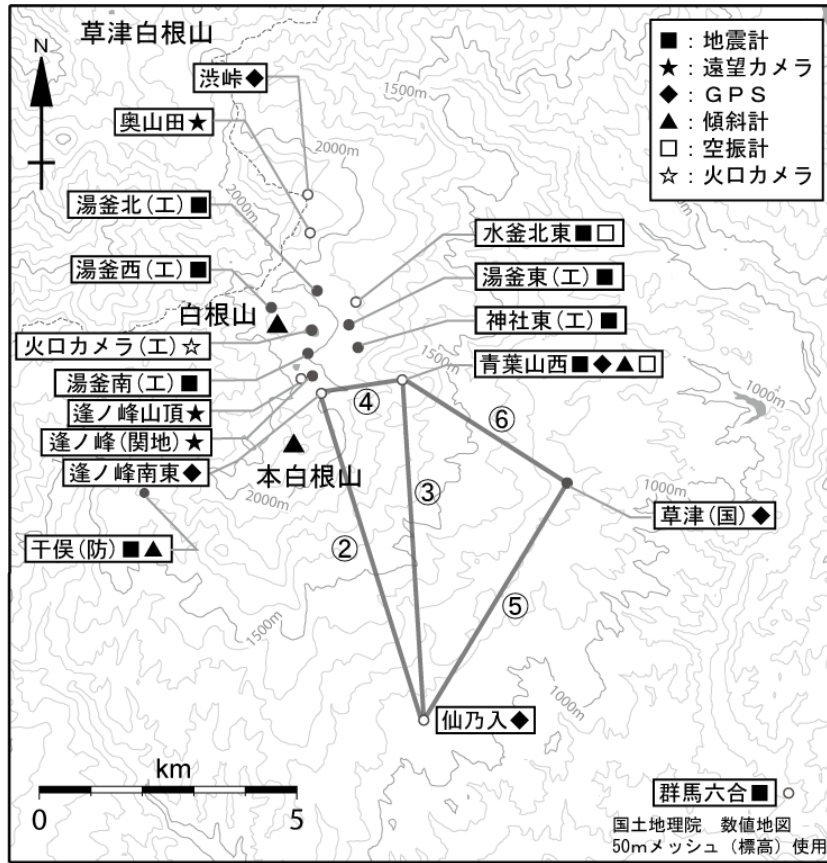


図4 草津白根山 火山活動経過図 (2002年1月～2014年1月)

- ① 山体付近で発生した地震の日別回数 (赤矢印は計数基準変更時期を示します)
 - ・検測対象波形を変位から速度に変更 (変更①：回数に差が生じないように計数基準を調整)。
「2005年1月21日まで：水釜北東振幅 $0.05\mu\text{m}$ 以上、S-P2秒以内」
- ②～⑥ GPS連続観測による基線長変化 (国)：国土地理院
 - ・2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
 - ・②の基線長変化にみられる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。
 - ・②には東北地方太平洋沖地震(2011年3月11日)に伴うステップ状の変化がみられます。
 - ・②～⑥は図5の②～⑥に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。
 - ・青い破線で示したデータの乱れは解析方法の変更によるものです。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院、(防) : 防災科学技術研究所、(工) : 東京工業大学、(関地) : 関東地方整備局

図5 草津白根山 観測点配置図

GPS 基線②～⑥は図4の②～⑥に対応しています。